

島根県なぎなた連盟

— これまでのあゆみ

本県で「なぎなた」がスポーツとして始まったのは、昭和40年4月に中島義和氏の指導のもと、出雲女子高等学校（現出雲北陵高等学校）になぎなた部が創部されたことである。その後、昭和46年8月に竣工間もない県立武道館を会場に全日本なぎなた連盟学校体育なぎなた西部地区指導者講習会が開催されたことを契機に、県立武道館の協力を得て、同年9月4日、会長に水谷鑑氏、理事長に中島義和氏、事務局長に石倉泰氏が就任し本連盟が結成された。以降、普及講習会や練成会が開催されて新しいなぎなたが普及するようになり、昭和49年には島根県体育協会への加盟を果たした。

また、昭和49年には全日本大学・全国高等学校選手権大会が本県で開催され、全日本なぎなた連盟のご指導のもと、成功を収めた。そして昭和57年の島根くにびき国体では、なぎなた競技が公開競技として初めて実施されることとなった。全日本なぎなた連盟をはじめ、県体協、大社町（会場地）の皆様が多なお力添えをいただき大会は盛会裏に終了。本県選手団も団体総合6位入賞を果たすことができたが、この大会は全日本なぎなた連盟にとっても記念すべき国体となった。

国体終了後、平成2年に本連盟に加入した野津有生子氏（旧姓 宮本）をはじめ、選手として国体や中国大会で活躍した荒木ゆう子氏、橋垣糸氏、平井美和氏らが熱心に小中学生の指導にあたり普及に努めていたが、平成7年、出雲北陵高等学校に板垣勇氏が赴任してからは競技力が飛躍的に向上し、高校選手が全国高校総体や国体で勝ち進み、注目を浴びるようになった。そして平成11年には板垣氏が都道府県対抗大会公開競技で、教え子の布施茜選手が全国高校総体で県勢初となる優勝を果たした。本連盟から優勝者を輩出したのは昭和57年の成田登代子氏以来であったが、師弟揃っての日本一という快挙となった。

この年以降、個人では安喰愛選手の皇后杯全日本選手権3連覇、龍澤瑠梨子選手の全国高校選抜大会、全国高校総体での春夏連覇をはじめ、小学生や大学生の大会でも多くの優勝者を輩出。また団体でも、全国高校総

体、国体、都道府県対抗大会、全日本学生選手権大会、全国中学生なぎなた大会等で優勝を果たした。加えて、板垣勇、安喰愛、井上美代の3選手が日本代表として世界大会にも出場し、個人・演技・団体に優勝あるいは準優勝している。

令和7年、本連盟は創立55年目を迎えるが、現在の本連盟があるのは歴代役員の皆様の長年にわたる献身的なご尽力、選手諸君の熱意と努力、更には全日本なぎなた連盟、県立武道館、県スポーツ協会をはじめとする関係の皆様のご理解と力強いご支援の賜物である。役員一同、今後とも力を合わせ、心身ともに調和のとれた人材の育成を目指す、素晴らしいなぎなたの伝統文化を継承していきたい。

— 現在の状況

平成23年に40周年を迎えて以降、本連盟の中心となつてご尽力いただいた役員の皆様の退任もあり、若い世代が理事に就任してきている。長らく連盟を牽引いただいた水谷勲会長は令和4年3月末を持って退任され、同年4月からは水谷厚志氏が会長に就任し、現在は野津理事長のもと、出雲北陵高等学校の卒業生達が連盟の運営に努めるとともに、選手としても練習に励みながら若い選手の指導・育成を熱心に行っている。

— これから

選手の活躍を支えるために、財政や大会役員確保といった運営面での一層の充実が必要である。加えて、少子化の中、いかに競技人口を増やしていくか、指導者や活動場所をどう確保するかが大きな課題となっている。

今後、本県では令和7年に全国高校総体、令和12年には国民スポーツ大会が開催されるが、関係の皆様のご協力をいただきながら、選手育成・大会準備に努めていきたい。



連盟創立40周年記念島根県なぎなた大会

